

第4学年1組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう（8時間）
教材名 表現（器楽）「陽気な船長」（市川 都志春 作曲）
表現（歌唱）「ゆかいに歩けば」
（保富 康午 日本語詞／メラール 作曲／加賀 清孝 編曲）
鑑賞 「白鳥／堂々たるライオンの行進」（サン＝サーンス 作曲）
表現（歌唱）「とんび」（葛原 しげる 作詞／梁田 貞 作曲）
- 2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現	(1) 歌唱	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。 ウ(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能
	(2) 器楽	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 イ(ア)曲想と音楽の構造との関わり イ(イ)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり ウ(イ)音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
B鑑賞		ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。 イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。
[共通事項]		ア リズム、旋律、強弱、呼びかけとこたえ ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律 イ 取り扱う音符、休符、記号や用語：スタッカート、p、mp、mf、f、 

(1) 題材観

本題材では、音楽を特徴付けている要素の一つである旋律に着目し、その特徴を聴き取ったり、それらによって生まれる曲想を感じ取ったりしながら、表現と鑑賞の活動を進めていく。旋律の音の動きと強弱との関わりや、スタッカートやレガートなどの旋律の特徴によって生み出される曲想の変化を感じ取り、それらにふさわしい表現の仕方について思いや意図をもって演奏したり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする力を育てることを目的とする。

(2) 指導観

＜教材について＞

器楽教材「陽気な船長」、歌唱教材「ゆかいにあるけば」は、どちらも前半の歯切れのよい弾んだ感じと後半の滑らかな感じの対照的な二つの旋律で構成されていて、旋律の特徴によって生み出される曲想の違いに気付きやすい教材である。前半と後半の旋律を比較しながら、それぞれの雰囲気合った演奏の仕方を工夫することができる。

鑑賞教材「白鳥／堂々たるライオンの行進」は、優雅に泳ぐ白鳥の様子が滑らかな旋律で、堂々としたライオンの行進を、重々しく歯切れよい旋律で演奏されていることを聴き取り、感じ取ることによって旋律の特徴に気付くことができる。

歌唱教材「とんび」は、旋律の上がり下がりや、とんびの鳴き声を表した旋律の同型反復といった特徴から、曲想の変化を感じ取って歌い方の工夫に結び付けることができる。

旋律の特徴から、歌い方や演奏の仕方を工夫し、旋律の動きと強弱などを結びつける力が身に付けられるようにしたいと考える。

<研究の視点との関わり>

【視点1】

②既習を生かして学びを深める授業づくり

本題材では音の上がり下がりや、「弾む感じ」や「滑らかな感じ」などの旋律の表情に着目し、旋律の特徴を捉えていく。児童は、3年生の「ふじ山」の学習で、曲の山について学習してきた。旋律の音の上がり下がりから曲の山を見つける学習を想起できるよう、3年時に教科書で示されている「曲の山」の掲示を示し、本題材でも生かせるようにしたい。また、常時活動として今月の歌などで音の上がり下がりやをハンドサインで表したり、曲の雰囲気に合わせて体を動かしたりすることにより、旋律の特徴がつかめるようにする。本題材でも、「ゆかいに歩けば」で、音が上がるとともに音が強くなることを学習し、その後「とんび」で、音の上がり下がりやと強弱の関係を学習する流れとなっている。

【視点2】

①音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

児童が旋律の特徴に気付くことができるように、旋律を線でつないだり、図形楽譜で示したりすることにより、視覚的に特徴がわかるようにする。また、とんびのペープサートを用意し、拡大した図形楽譜と合わせながら動かすことにより、とんびがどのように飛んでいるかイメージしながら旋律を捉えられるようにする。

また、児童が「とんび」のイメージをより明確にもって歌い方を工夫できるようにするために、とんびが空を飛ぶ映像を見たり、実際の鳴き声の音声を聴いたりする活動を取り入れる。自分が考えた歌い方の根拠を言語化するのが難しい児童については曲の雰囲気を表す言葉を掲示したものをを用いて、その中から自分のイメージに合うものを選べるようにする。また、ペープサートや映像を用いた活動でとんびが飛ぶ様子についてのイメージが膨らむと考えられるので、言語化が難しい児童の助けにもなるだろう。

音の上がり下がりやと強弱の関係については、「とんびが気持ちよく飛べる歌い方」という言葉かけをし、旋律の形や歌詞の内容に対して自然な歌い方を工夫できるようにする。さらに、音が上がったら弱く、音が下がったら強くと、学習の意図とは逆の歌い方を試し、「とんびが気持ちよく飛べる歌い方」になっていたかを振り返らせることで自然な表現ができるようにしていく。

【視点3】評価の在り方<主体的に学習に取り組む態度>

粘り強く取り組んでいる様子と学習を自己調整しようとしている様子について、以下のような姿を見取っていく。評価方法として観察や授業中の発言内容、ワークシートを使う。ワークシートは題材を通して学習の見通しがもてるように作成し、毎回振り返りを書かせるこ

とによって、どのようなことを意識して学習に取り組んだかを見取る。形成的に評価することで、題材の初めと終わりで、児童の学習への取り組み方の変容も見取ることができるようにする。

粘り強く取り組んでいる様子

- ・十分満足できると判断される姿…歌詞の内容や旋律の特徴を捉え、曲の特徴にふさわしい強弱を考えることに高い関心をもち、繰り返し歌って試したり自分の考えを友達と伝え合ったりして粘り強く取り組んでいる。
- ・おおむね満足できると判断される姿…旋律の特徴である音の上がり下がり捉え、曲の特徴にふさわしい強弱を考えることに関心をもち、繰り返し歌って試したり自分の考えを友達に伝えたりして粘り強く取り組んでいる。

自己調整しようとしている様子

- ・十分満足できると判断される姿…歌詞の内容や旋律の特徴と強弱との関わりについて考え、自分の考えをもつだけでなく、自己の経験やイメージと結び付けたり、友達の考えを理解したりしようとしている。また、学習したことを次に生かそうとしている。
- ・おおむね満足できると判断される姿…歌詞の内容や旋律の特徴と強弱との関わりについて考え、自分の考えをもとうとしている。

努力を必要とすると判断される児童に対しては、以下の手立てでおおむね満足できる姿へ導きたい。

○小さな行動や発言を見逃さず、認める

音の上がり下がりやハンドサインで示していたり、旋律に合わせた自然な強弱を歌いながら確かめていたりする姿を見逃さず、認めることで、児童が見てもらっているという安心感をもち、意欲的に学習を進めていくことにつながる。

○学習の助けとなる資料や既習などを想起させる

図形楽譜やペーパーサートなど、音の上がり下がりの特徴がわかる資料を示したり、「ふじ山」「ゆかいに歩けば」で学習した音の上がり下がりや強弱の関係を想起させたりして、本時の学習に児童が抵抗なく取り組めるようにする。

○友達と自分の考えを伝え合う時間を作る

自分の考えを、席の近い友達と伝え合う時間を設けることで、友達から学ぶことができるようにし、自身の学びにもつなげていけるようにする。

3 題材の目標

○旋律の特徴や歌詞の内容などと曲想との関わりに気付き、それらを生かすために必要なタンギングや息の使い方、呼吸や発音などに気を付けて演奏する技能を身に付ける。

(知識及び技能)

○旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。

(思考力、判断力、表現力等)

○旋律の特徴を捉えて表現したり観賞したりする学習に興味をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽や観賞の学習に取り組み、様々な音楽との関わりを通して旋律に親しむ。

(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知技曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>②知技曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p>③知曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。</p>	<p>①旋律を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②旋律を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>③旋律を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>①音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、旋律の特徴を生かした表現の学習活動及び旋律の特徴が生み出すよさや面白さを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材の指導計画及び評価計画（8時間扱い）（本時7/8）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	○教師の働きかけ	評価規準 (評価方法)		
		☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	・目指す児童(生徒)の姿 【視点】	知技	思	態
◎旋律の特徴を感じ取り、特徴を生かして「陽気な船長」を演奏する。						
第一次	第1時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気が変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○「陽気な船長」のアとイの旋律の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アを「トゥ」、イを「ル」で歌い、旋律の特徴を抑える。 ・スタッカートの意味や演奏の仕方を知る。 ・音色に気を付けながら主な旋律を演奏する。 <p>☆〔 旋律 〕 (スタッカート)</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○アとイのそれぞれの旋律がどのような雰囲気か、掲示を見ながら言葉で表せるようにする。また、その雰囲気の根拠は旋律のどのような特徴にあるのかを考えられるようにする。 【視点2①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカートやレガートなどの旋律の特徴を捉え、どのように演奏を工夫するか思いや意図をもっている。 		① (記述・発言・聴取)	① (記述・発言・聴取)
	第2時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気が変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○「陽気な船長」をアとイの旋律の特徴を生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を、スタッカートとレガートに気を付けて演奏する。 ・副次的な旋律を、低音に気を付けて演奏する。 <p>☆〔 旋律 〕</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○前時で旋律の特徴を確認したことを思い出しながら演奏できるようにする。アとイそれぞれの演奏の仕方を工夫している児童を認め、広めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカートやレガートなどの旋律の特徴に合わせたタンギングや息の使い方で演奏している。 	① 知技 (記述・発言・演奏聴取)		

◎旋律の特徴を感じ取り、特徴を生かして「ゆかいに歩けば」を歌う。			
第 3 時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気の変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○「ゆかいに歩けば」を旋律の特徴を感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アとイの旋律について感じ取ったことを共有する。 ・範唱を聴いたり楽譜を見たりすることで、旋律の特徴を確認する。 ・アとイの旋律の特徴に合った歌い方で歌う。 <p>☆ [旋律] (p)</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○旋律を聴いて感じ取ったことは掲示を見ながら言葉を選んでよいことを伝え、言語化が難しい児童でも雰囲気が感じられるようにする。【視点2①】</p> <p>○スタッカートや音の長さなど、アとイの旋律の特徴が楽譜を見て確認できるようにする。</p> <p>○感じ取ったそれぞれの旋律の雰囲気が、旋律の特徴に根拠があることをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカートやレガートなどの旋律の特徴を捉え、どのように歌い方を工夫するか、思いや意図をもっている。 	② (記述・発言・聴取)

	第4時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気の変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○「ゆかいに歩けば」を旋律の特徴に合わせて工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの音の高さと強弱記号との関係についておさえる。 <p>☆ [旋律]</p> <p>(p) (mp) (mf) (f)</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○図形楽譜を示し、音が上がるにつれて強弱も強くなっていることをおさえる。【視点2①】</p> <p>○音が上がるにつれて弱く歌ってみることで、どちらが自然な感じになるかわかるようにする。</p> <p>【視点2①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が上がると強弱が強くなることに気づき、歌い方を工夫している。 	② 知技 (記述・発言・演奏聴取)				
◎旋律の特徴を感じ取り、「白鳥」「堂々たるライオンの行進」を聴く。		第三次	第5時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気の変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 ・「とんび」を歌う。 <p>○旋律の特徴を感じ取りながら「白鳥」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形楽譜を指でたどり、ピアノとチェロの旋律の動きを捉える。 ・ピアノとチェロの旋律から、それぞれどんな様子を想像するか考える。 <p>☆ [旋律 リズム]</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○歌詞や旋律が捉えられるようにする。</p> <p>○図形楽譜を用いて、ピアノとチェロそれぞれの旋律の特徴がわかるようにする。</p> <p>○ピアノとチェロ、それぞれの旋律が何を表しているかを、旋律の特徴と結び付けて考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と旋律の関わりについて気づき、味わって聴いている。 	③ 知 (聴取・記述・発言)	③ (記述・発言・聴取)	

	第6時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気の変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○「とんび」を歌う。</p> <p>○旋律の特徴を感じ取りながら堂々たるライオンの行進」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形楽譜を指でたどりながら、主な旋律の動きを捉える。 <p>☆〔旋律 リズム 強弱〕</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○歌詞や旋律が捉えられるようにする。</p> <p>○図形楽譜を用いて、主な旋律の特徴がわかるようにする。</p> <p>○主な旋律が、ライオンのどのような様子を表しているかを考えさせ、旋律の特徴とどのように結びついているかおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と旋律の関わりについて気付き、味わって聴いている。 			
◎旋律の特徴を生かして「とんび」を歌う。						
第四次	第7時(本時)	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気の変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○1、2、4段目旋律の特徴を捉え、強弱を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびが飛ぶ様子の映像や実際の鳴き声からイメージをもつ。 ・音を線でつなぎ、音の上がり下がりから旋律の特徴を捉える。 ・音の上がり下がりによって強弱をどのように付けたらよいかを考え、工夫して歌う。 <p>☆〔旋律 強弱〕</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○とんぴの映像を見てから範唱を聴き、どんな様子が思い浮かんだか共有することによってどんな歌い方をしたいかという思いがもてるようにする。</p> <p>【視点2①】</p> <p>○旋律を線でつなぐ活動を通して音の上がり下がりなどの特徴がつかめるようにする。図形楽譜でも示し、視覚的に旋律の特徴が捉えられるようにする。</p> <p>【視点2①】</p> <p>○「ふじ山」で学習した「曲の山」や、「ゆかいに歩けば」で</p>		②(記述・発言・聴取)	

		<p>学習した音の上がり下がりと強弱記号の関係を想起させ、1、2、4段目の強弱を考えられるようにする。【視点1②】</p> <p>○音が上がった時に弱く歌ってみることで、「とんびが気持ちよく飛べる歌い方」になっているか確認し、自然な強弱がつけられるようにする。【視点2①】</p> <p>・旋律の音の上がり下がりの特徴と強弱との関わりに気付き、歌い方を工夫しようとしている。</p>			
第8時	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じてリズム遊びをする。 ・雰囲気が変わるところで動きを変える。 ・音の高さに合わせてハンドサインをする。 <p>○3段目の呼びかけとこたえを、強弱を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびが何羽いて、どんな会話をしているか考えながら、強弱を工夫する。 <p>☆〔旋律 強弱 呼びかけとこたえ〕</p>	<p>○曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、音の高さをハンドサインで示したりして、旋律の変化や音の上がり下がりを感じ取れるようにする。【視点1②】</p> <p>○とんびが飛ぶ様子の映像やとんびの鳴き声をもう一度確認し、とんびが何羽いてどんなことを話しているのか、イメージを膨らませることができるようにする。【視点2①】</p> <p>○とんびの様子と強弱を結び付けて考えている児童の意見を広めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけとこたえについて、歌詞の内容や曲想から思いや意図をもち、強弱を工夫しようとしている。 	② 知技 (記述・発言・演奏聴取)		

6 本時の指導（7／8）

（1）本時の目標

旋律の特徴に気付き、音の上がり下がりや強弱の変化の関わりについて考えながら、歌い方を工夫する。

（2）本時の展開

<p>学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕</p>	<p>○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】</p>
<p>1 常時活動をする。 ・曲の変化を感じながら体を動かしたり歌ったりする。</p> <p>2 「とんび」を歌う。</p> <p>3 とんびのどのような様子を伝えたいか考える。 ・とんびが飛んでいる映像を見たり、とんびの鳴き声を聴いたりして、とんびの様子について知る。 ・自分が伝えたいイメージをワークシートに書く。</p> <p>4 本時の目標を知る。</p>	<p>○心と体をほぐしながら、旋律の変化を感じて体が動かしたり、音の高さをハンドサインで表したりするように声をかける。 【視点1②】</p> <p>○歌詞や曲の雰囲気を確認しながら伸びやかに歌うことができるように声をかける。</p> <p>○とんびのどのような様子を歌で伝えたいかを、とんびの映像や鳴き声を手掛かりに考えられるようにする。 【視点2①】</p>
<p>せんりつのとくちょうに合わせて強弱を工夫しよう。</p>	
<p>・1、2、4段目と3段目の旋律の特徴の違いを捉え、本時は1、2、4段目の強弱を工夫することをおさえる。</p> <p>5 旋律の特徴について考える。 ・音と音を線でつなぎ、つないだ線をとんびのペープサートの動きで表し、音の上がり下がりや強弱を視覚的に捉える。</p> <p>6 旋律の特徴から、1、2、4段目の強弱を考える。 ・クレシェンド、デクレシェンドを楽譜に書き込み、考えた理由も書く。</p>	<p>○拡大楽譜の音と音を線でつないで1、2、4段目と3段目の旋律の特徴の違いが視覚的にわかるようにする。</p> <p>○旋律に合わせてペープサートを動かすことで、とんびが飛ぶイメージと旋律の動きを関わらせて考えられるようにし、どのような高さで進行していく旋律なのかをおさえられるようにする。 【視点2①】</p> <p>○初めに考えた、自分が伝えたいイメージに合うかどうかもお考えられるようにする。</p> <p>○音の上がり下がりや強弱に着目して考えるように声をかける。</p> <p>○ワークシートを書く間、範唱の音源を繰り返し流しておき、歌いながら確かめることができるようにする。</p>

<p>7 考えた強弱を近くの席の児童と共有する。</p> <p>8 全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に考えた強弱で歌ってみる。 ・音が下がった時は強く、上がった時は弱く歌ってみる。 <p>9 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張ったことやわかったことなどをワークシートに記入する。 	<p>○「ふじ山」で学習した「曲の山」や、「ゆかいに歩けば」で学習した音の上がり下がりと強弱記号の関係を掲示物を使うなどして想起させ、1、2、4段目の強弱を考えられるようにする。 【視点1②】</p> <p>「ゆかいに歩けば」で、音が上がると強くなったことを想起させながら、「とんびが気持ちよく飛べる」ような強弱になるように声をかける。</p> <p>◇旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(思考・判断・表現) <記述・発言・聴取></p> <p>○友達と考えを伝え合うことで、自分の考えを明確にしたり、友達から学んだりすることができるようにする。</p> <p>○音の上がり下がりによって、どのような強弱をつけるのがふさわしいか、実際に歌いながら確かめる。音が下がった時は強く、上がった時は弱く歌うなど逆の表現を試すことで、「気持ちよく飛べる」感覚がわかるようにする。 【視点2①】</p> <p>○音の上がり下がりと強弱の関係を確認する。</p> <p>○どんなことを意識して学習に取り組んだか振り返ることができるようにする。</p> <p>◇音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、旋律の特徴を生かした表現の学習活動及び旋律の特徴が生み出すよさや面白さを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) <記述・発言・聴取></p>
---	---